

学校だより 令和4年度 12月号

NO.8



のびる ほどっ子!

令和4年11月30日
横浜市立保土ケ谷小学校
学校長 小川 克之



ほっとな未来へ 3C!



「150周年の梅」

学校長 小川 克之

いよいよ師走、2022年(令和4年)も最後の1か月を迎えます。皆様にとってこの1年はどのような年でしたでしょうか。

保土ケ谷小学校にとっては、150周年という記念すべき年でした。7月に実施した「150周年記念式典」も、無事に終えることができました。改めて感謝申し上げます。

私自身、150周年を迎えるにあたり、今年は保土ケ谷区の郷土史や保土ケ谷小の周年記念誌を読むことが多く、改めて歴史の重さや深さを感じることができました。保土ケ谷小に着任したときは、なぜ校章が梅鉢(うめばち)なのか、いつ制定されたのか等わからないことも多かったのですが、改めて記念誌を読み解いていくと、当時の教職員の思いや願いがひしひしと伝わってきました。

梅鉢(うめばち)の校章は、明治38年(1905年)に制定されました。今から117年前のことです。保土ケ谷小周辺が梅の産地ということではなく、学問の神様として名高い菅原道真公の神紋を取り入れ、賢い子どもに育てほしいという思いや願いから採用されたということです。今でも(菅原道真公を祀っている)天満宮に行くと、梅鉢の神紋が多く見られます。制定当初の校章は、梅の中心部に「程」という字が入っていましたが、現在では「保」という字に変わっています。

昭和35年(1960年)の創立88周年の時につくられた校歌の歌詞の4番に「うめばちの このきしょう おかしから 今に伝えて…」とありますが、いつまでもこの校章を大切に伝えていってほしいと思います。

さて、11月11日(金)に、150周年記念の梅の木を植樹を行いました。場所は、キッズクラブの入り口近くの植え込みです。門柱(旧校舎に建っていたもの)の隣に、紅梅の木(紅冬至という種類です)を1本植えました。木が大きいこともあり、当日は業者の方に植えていただきましたが、その様子は動画に撮り、14日(月)の朝会の時に全校に流しました。植樹した梅にはたくさんの芽がついており、1~2月にはきれいな紅色の花が咲くそうで今からとても楽しみにしています。ちなみに10年前の140周年の時には、しだれ梅を正門横の植え込みに植樹しており、春にはきれいなピンク色の花を咲かせてくれます。

保土ケ谷小学校が現在の場所にある限り、この梅の木は子どもたちの成長を見守ってくれていますし、子どもたちが卒業してからもきれいな花を咲かせてくれることでしょう。



最後になりましたが、今年一年保護者や地域の皆様には、本校の教育活動に対しご理解、ご協力をいただきましたこと深く感謝申し上げます。まだコロナ禍でもあり、インフルエンザの流行も心配ではありますが、来年は皆様にとって、素晴らしい年になりますようお祈り申し上げます。来年もよろしくお祈りいたします。

※植樹した梅の木(紅冬至)は、花いっぱい活動の一環として(NPO 法人)元気な地域人の会から寄贈していただきました。